

図書だより

白楊高校図書館 2014.1.29

やっぱり病院の風邪薬ってスゴイ！
と思った今日この頃



みなさん！今さらですがあけましておめでとうございます！今年もよろしくお祈りします！

毎日寒いですね～。着込んでも着込んでも足りません。ホッカイロをおしりに貼ると、なかなか暖かいということ去年発見しまして、今年もその防寒対策で乗り切ろうと思います。みなさんもお試しあれ。さて、話は変わりますが、この図書だより3年生にはラスト図書だよりとなります。今の3年生と司書が白楊に来たのが一緒なので、無事卒業していくのは嬉しくもあり、寂しくもあり。3年間ありがとう。とは言っても卒業まであと1カ月ありますので、まだまだ遊びに来て下さいね！

NEW



ピブリア古書堂の
事件手帖 5
(三上延)



人生は
ニャンとかなる！



ユニコーン
(原田マハ)



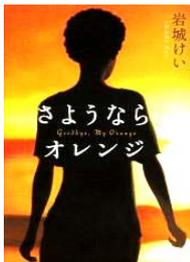
死ねまでに行きたい！
世界の絶景
(詩歩)



銀の匙 10
(荒川弘)



体幹力を身につける
コア・ストレッチ



さようなら、オレンジ
(岩城けい)



面倒だから、しよう
(渡辺和子)



地域食材大百科
第12巻



GOSICK RED
(桜庭一樹)



パンダ銭湯
(tupera tupera)

第150回芥川賞・直木賞

今月16日に発表されました芥川賞・直木賞を、少しだけ紹介します。図書室にもまもなく入荷予定！



穴
小山田浩子

仕事を辞め、夫の田舎に移り住んだ夏。奇妙な獣の姿を追う私は、得体の知れない穴に落ちた。『穴』を含む、待望の第二作品集。



昭和の犬
姫野カオルコ

ひとりの女性の45年余の歳月から拾い上げた写真のように、昭和から平成へ日々が移ろう。ちょっとうれしいこと、すごくかなしいこと、小さなできごととのそばにそっといる犬と猫。

直木賞



恋歌
朝井まかて

樋口一葉の歌の師匠だった中島歌子が、水戸天狗党の妻として過ごした幕末。苛烈な運命に翻弄された女の一生を、巧緻な筆で甦らせる。

直木賞

お知らせ①

希望図書調査にご協力頂きありがとうございました。希望された本は、図書選定委員会にて購入するものを選ばせて頂きます。図書室に入る本は来月の図書だよりでお知らせしますのでお楽しみに！

お知らせ②

冬休み前に貸し出した本は期限が過ぎていきます。特に3年生で延滞している人は、大至急返却して下さい。卒業式までに返し忘れがないようにしましょう。

先

生

&

図書

委員

さん

オススメ

理科
菊池裕子 先生



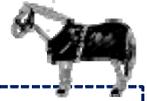
「伊藤ふきげん製作所」
伊藤比呂美
毎日新聞社



「春になったら苺を摘みに」
梨木果歩
新潮社



画: いもこ



「十二支のおはなし」 内田麟太郎・文 山本孝・絵

年の暮れに神様が言われました。
「新年のご挨拶に来なさい。早いものから順に、十二番まで、一年間ずつその年の大将にしてあげよう」
動物たちはその言葉を聞いて大喜び!さてさて、だれが一番になるのやら...。
毎年その年の干支が変わりますが、皆さんは知っていますか? 「十二支のはじまり」を。知っているようで意外と知らない十二支のはじまりが描かれている絵本です。

1年6組図書委員

「お気に入りの本に出会うには?」

中高生の頃、私にとって「本を選ぶ」というのは、小さなイベントでした。「本を買おう」という意志を持って、文庫本コーナーにいき、平積みされた本、本棚に整理された本の中から気になる本を手を取る。「気になる」のは、カバー装画やタイトルに惹かれたとき。そして、その本の裏表紙にある、内容の紹介文を見て、「面白そう」と思ったら、候補。当然、購入候補には数作品になりますが、悩むに悩んで一冊に絞って購入。この、じっくりと読む本を決めていく過程と時間が大好きでした。良かったら、本を買うときや読む本を選ぶ時に、みなさんも試してみてくださいね。

さて、上記のように買った本は、今まで何回も読み返してきました。その中から、エッセイ作品を2点紹介します。どちらも、海外での暮らしに興味がある方にお勧めです。その理由は本の紹介にて。

一冊目は、伊藤比呂美の「伊藤ふきげん製作所」。思春期真っ只中の娘カノ子(13歳)との関係、彼女の成長、そして家族との日々の生活を中心に、お母さんの目線から家族のことが書かれているエッセイです。著者がカリフォルニアに移住して半年後から書かれた作品なので、アメリカでの居住生活、カノ子の現地での学校生活の様子も書かれています。

二冊目は、「春になったら苺を摘みに」。著者は梨木果歩です。「西の魔女が死んだ」を書いた作家といえピンとくる人もいないのでしょうか?著者が学生時代に過ごしたイギリスでの生活が中心に書かれたエッセイ。彼女は下宿先で、下宿の女主人ウェスト夫人を始め、さまざまな人種や考え方の人と出会い、また暮らします。彼女がその中で見たこと、感じたことが、静かにそして深く書かれている作品。「異文化の中から自分に与えられる影響と、異文化の中へと自分が与えていく影響、受け容れるということは何か」、そんなことを考えさせられる一冊です。

「百年法」 山田宗樹 著

人類は不老不死になることを実現した社会に生きていた。しかし、生存制限法(通称百年法)により100年後に死ななければならなかった。その時間は刻々と進んで、百年法がついに発令される時政治家、家族、恋人様々な人が死に直面するその瞬間人間は何を思うのか。
この本は少し難しいですが読み応えのある本です。「上下」あるので長いですが読んでしまえばすぐに読み終わります!是非読んでください!

誰も知らない図書委員

「枕草子REMIX」 酒井 順子 著

明るい毒舌。女の男気。自覚たっぶりの意地悪、いっそ潔いほどの悪口、ミーハーで無邪気なモテ自慢、ミモフタもないブス嫌い。なんだかんだぼろりと見せる女心の清少納言との架空対談あり、痛快な意識あり、観光案内もあり!

独特の文体でさらりとすまして分析する芸風のクールな著者が、清少納言史への熱い共感、随筆への愛をこめて書きあげた一冊です。

1年図書委員

原田マハ MAHA HARADA



今月紹介するのは、原田マハさん。

森ビル森美術館設立準備室、ニューヨーク近代美術館勤務を経て、2002年フリーのキュレーター(※美術館や博物館などで、展示する作品の企画から運用まで全般を請け負う仕事)、カルチャーライターとなり、『カフェを待ちわびて』で第一回日本ラブストーリー大賞を受賞し作家デビュー。

変幻自在に言葉を操り、作品ごとに様々な顔をのぞかせます。中でも美術をテーマにした作品は、その職業出身の著者の真骨頂とも言えるでしょう。

白楊でもファン増加中。